

確率統計基礎講義 A

若木宏文

wakaki@hiroshima-u.ac.jp

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/wakaki/lecture/index.shtml>

2019.4.12

目次

1. 1次元正規分布とその拡張

1.1. 1次元正規分布

定義

確率密度関数

$$f(x; \mu, \sigma^2) = \frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma^2}} \exp\left\{-\frac{1}{2\sigma^2}(x - \mu)^2\right\} \quad (\mu \in \mathbb{R}, \sigma > 0)$$

によって定まる連続型分布を，1次元**正規分布**といい， $N(\mu, \sigma^2)$ と表す。

特に， $N(0, 1)$ を**標準正規分布**と呼び，その確率密度関数を $\phi(x)$ ，分布関数を $\Phi(x)$ と書く。

何故正規分布？

多くのデータの分布に当てはまりが良い。
(特に生物のデータ)

中心極限定理

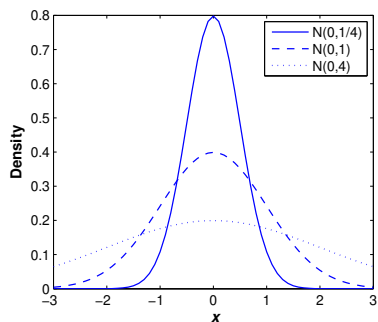
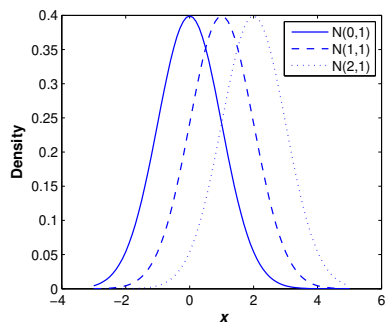
$X_1, X_2, \dots \stackrel{i.i.d.}{\sim} \{E[X_i] = \mu, \text{Var}[X_i] = \sigma^2\}$

$$\frac{\sqrt{n}}{\sigma} \left\{ \frac{1}{n} (X_1 + \dots + X_n) - \mu \right\} \xrightarrow{d} N(0, 1) \quad (n \rightarrow \infty)$$

注. X_1, X_2, \dots が同じ分布でなくても、適当な条件下で漸近正規性が成り立つ。(リンダーバーグ・フェラーの中心極限定理)

分布の特性

1. 正規分布は μ を中心に左右対称な分布であり, μ は中心位置, σ^2 は裾の広がりを表している.



分布の特性 (続き)

$$2. X \sim N(\mu, \sigma^2) \Rightarrow Z = \frac{X - \eta}{\psi} \sim N\left(\frac{\mu - \eta}{\psi}, \frac{\sigma^2}{\psi^2}\right)$$

$$X \sim N(\mu, \sigma^2) \Rightarrow Z = \frac{X - \mu}{\sigma^2} \sim N(0, 1)$$

$$Z \sim N(0, 1) \Rightarrow X = \sigma Z + \mu \sim N(\mu, \sigma^2)$$

$$3. X \sim N(\mu, \sigma^2) \Rightarrow E[X] = \mu, \text{Var}[X] = \sigma^2$$

$$\alpha_r = \begin{cases} 0 & (r \text{ が奇数}) \\ 1 \times 3 \times \cdots \times (r-1)\sigma^r & (r \text{ が偶数}) \end{cases}$$

4. $X \sim N(\mu, \sigma^2)$ のとき, X の特性関数は

$$\mathcal{C}(t) = \exp\left(it\mu - \frac{1}{2}t^2\sigma^2\right)$$

分布の特性 (続き)

- 再生性 : $X_1 \sim N(\mu_1, \sigma_1^2), X_2 \sim N(\mu_2, \sigma_2^2)$ で, かつ, X_1, X_2 が独立ならば $X_1 + X_2 \sim N(\mu_1 + \mu_2, \sigma_1^2 + \sigma_2^2)$
- 乱数発生法 (ボックス=ミュラー法) $U_1, U_2 \stackrel{i.i.d.}{\sim} U(0, 1)$ とし,

$$Z_1 = \sqrt{-2 \log U_1} \cos(2\pi U_2)$$
$$Z_2 = \sqrt{-2 \log U_1} \sin(2\pi U_2)$$

とすると $Z_1, Z_2 \stackrel{i.i.d.}{\sim} N(0, 1)$

正規分布の発見

ド・モアブル＝ラプラスの定理

最初に正規分布を提示したのは（恐らく）ド・モアブル
 $X \sim B(n, p)$ (2項分布) ならば

$$\frac{X - np}{\sqrt{np(1-p)}} \xrightarrow{d} N(0, 1) \quad (n \rightarrow \infty)$$

ガウス分布，誤差分布

測定誤差の分布として，ガウスが導出した。

同じ対象を繰り返し測定して得られる観測値 x_1, \dots, x_n の
統計モデルとして

$X_1, \dots, X_n \stackrel{i.i.d.}{\sim} f(x - \mu)$ (確率密度関数) とする。

正規分布の発見（続き）

μ の尤度関数は

$$L(\mu; x_1, \dots, x_n) = \prod_{i=1}^n f(x_i - \mu)$$

任意の x_1, \dots, x_n に対して、 $L(\mu; x_1, \dots, x_n)$ が
 $\mu = (x_1 + \dots + x_n)/n$ で最大となるような、滑らかな関数 f
を導出すると

$$f(x) = \frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma^2}} \exp\left\{-\frac{x^2}{2\sigma^2}\right\}$$

が得られる.